



ミス浴衣コンテストに挑戦

八王子まつりを彩る太鼓の音が響く8月6日夕。私はJR八王子駅前の野外ステージ「とちの木デッキ」に浴衣を着て、少し“おすまし”していた。

当地近郊の学生を対象とした『八王子学生ミス&ミスターゆかたコンテスト』、その最終審査の舞台に立っていた。

男女各10人がごぞって浴衣を着ている。大会スタッフも浴衣姿だ。10人の中からグランプリ、準ミス(準ミスター)など4つの賞が授与される。グランプリには協賛会社の広告モデルやポスターのモデルとなる特典があるという。

帯留めに付けたエントリーナンバーを示すホルダーが、曲がってはいないか。そっと確認した。第1回大会が、私の学生生活では最後の大会になる。中央大学多摩キャンパスに学んだ思い出になればと応募した。

浴衣には思い出がある。小学生のころは祖母が縫ってくれた、とびきりお気に入りのものを着て、盆踊りに参加した。今でも着物に憧れ、浴衣が好き。花火を見に行く日などはYouTube(動画サイト)に教わりながら、一人でなんとか着付けられる。

二次審査からびっくりの連続だった。会場は駅前のオリンパスホール。好きなアーティストのライブを見に来たことがある。客席から今度は小さいとはいえステージへ。不思議な感覚にとらわれた。

用意された部屋にあったのは、バレエスタジオにあるような全面鏡。まるでテレビで見たアイドルのオーディションのようだ。緊張が高まるのが自分でも分かる。

応募者は5人ずつ呼ばれ、審査員に自己PRする。審査員の後ろには、ほかの応募者がいて、話すときは50人ほどの視線が自分に集まった。祖母と浴衣と盆踊りの思い出話をした。

最終審査前の野外ステージ、中大女子学生が厳しい暑さで気分が悪くなった。近くにいた男子2人と私が、うちわで涼を急いで入れた。

彼女は3年生、控え室で同じ大学と分かり仲良くおしゃべりしていた。浴衣が曾祖母の手づくりと聞いて、家族の絆が伝わってきた。

ほどなく着付けの先生が現れ、全員の浴衣をチェックしてくれた。

中大生の八王子愛

最終審査が始まった。自己PRでは皆さん、話が上手だ。オーラさえ感じさせる人もいた。「茶道をたしなみます」「きょうは友人のお姉ちゃんの浴衣を借りてきました」…それぞれが思い思いの浴衣で、自らの想いを語った。

私はマイクを使わなかった。精いっぱい大きな声で、一般客の皆さんや応援に来てくれた友人に感謝した。ありのままの気持ちを思い切り伝えたかった。

参加者で目立ったのは中大生の多さだ。大学所在地である“八王子愛”なのだろう。私もその一人だ。

準ミスに中大3年生の彼女が選ばれた。初対面ながら私まで心底うれしかった。

最終審査まで残していただき、素敵な仲間と出会え、友人らと楽しい時間を過ごせた。大学生活の中で「8・6八王子」は、忘れられない1日になった。

八王子学生ミス&ミスター ゆかたコンテスト

▽主催 同コンテスト実行委員会

▽後援 八王子市、八王子観光協会、
八王子商工会議所、八王子織物工業組合、
東京織物卸商業組合